

「しんぶん赤旗」  
小話

③

「しんぶん赤旗」には、毎日発行の日刊紙と毎週日曜日発行の日曜版の二つの新聞があります。政党機関紙では公明党が「公明新聞」という日刊紙を発行しています。しかし、「日本国内外の各種一般報道を行い、一般紙然とした紙面・ページ数が特徴であり、党员以外の購読者を多く抱えている」（インターネット上の辞書、ウィキペディア）と評される日刊紙は、日本共産党の「赤旗」

## “赤旗のような機関紙を”

だけです。毎日、世界と日本で起きるさまざまな出来事について、どのようにみたらいいのか、どう打開するのかなど、考える視点

や材料を翌朝には読者のもとに届ける—そんな日刊紙の役割、威力は大きいものがあります。それは、衆院解散から投票日までわずか24日間の超短期決戦だった昨年暮れの総選挙、戦争法案をめぐる激しい攻防を振り返ってみれば、一目瞭然でしょう。

初めに自民党幹事長からこんな「命令」をうけたことを、「告白」しました。「赤旗」には広く党外の人に読んでほしい、支持者になってもらおうという戦略性があるが、「自由民主」にはそれがないから、と。しかし、編集長いわく、「今に至るも実現できていない」。

「赤旗」の“強さ”を支えているのが、100万人の読者をもつ、週刊紙誌最大部数を誇る日曜版の存在です。親しみやすく多彩な紙面編集は、党と国民との結びつきを広げる最良の媒体としての役割を果たしています。



各党が発行している機関紙

1970年代

(つづく)